

令和7年度活動計画

活動計画

南種子町の農業は、さとうきびや早期水稻といった土地利用型作物の栽培が盛んである。現在、担い手の不足及び高齢化が深刻化していることに伴い、遊休農地の増加や農家戸数の減少が予想される。また、肥料や農薬等の資材の大部分を島外からの移入に依存しており、化石燃料価格の高騰が生産コストに大きく影響している。以上のような課題は農業分野のみならず、すべての分野においてみられる課題であり、将来に向けて解決への取組みが必須である。

こういった状況の中、農業や地域の将来も見据え、持続可能な食料システムの構築に資する取組として有機農業を推進する。地域の有機資源を活用した環境にやさしい農業で生産された農業生産物という、付加価値を高めた製品の販売につながることが期待でき、さらには子供たちへ環境にやさしい地元の食材を使った給食を提供することが可能となる。オーガニックな町づくりに取り組むことで、環境汚染や人口減少、高齢化等の様々な課題の解決を目指していく。

また、本年度も南種子町に適した環境にやさしい栽培技術と省力化に資する技術を検証して新たな栽培体系の普及に向けた栽培マニュアルと産地戦略の策定に向け、早期水稻及び安納いもに係る実証栽培を行いマニュアルおよび産地計画を作成し、8年産に向けて農家説明会を実施する。

① 検討会の開催

有機農業の推進を核としたまちづくりについて、南種子町有機農業推進協議会のさまざまな構成機関が、それぞれの専門分野から意見を交換し合うことで、広範な波及効果を目指すものである。この取組みの波及効果としては、環境保全、新規有機農家の確保、遊休農地の解消、住民の環境意識の向上、移住者の増加などが期待される。

鹿児島大学と共同で行った「種子島産農産物の生産・流通の実態および町民(島民)の消費行動調査」の成果を基に、今後の方向性や、地域内生産物の流通・販路に関する検討会、さらに有機給食への地元産品の供給に関する検討会を継続して行う。先進地の取組みについても研究・研修を進める。

② 有機農業推進のための試行的な取組の実施

生産分野では、昨年度行った有機農業研修会を継続し、栽培支援と給食出荷体制の構築、また地場野菜販売所における有機野菜分野の推進に取り組む。「グリーンな栽培体系サポート事業」(2年目・最終年度)では、早期水稻および安納芋の実証栽培を行い、環境に優しい栽培技術や省力化技術の検証を行う。これをもとに新たな栽培体系の普及を目指し、栽培マニュアルの作成と産地戦略の策定を行い、令和8年産以降の栽培面積拡大を目指す。

担い手確保と有機農業の普及啓発の取組みとしては、地元産有機農産物の学校給食利用拡大や農業体験イベントを実施し、新規有機農家の増加や環境意識の向上、地元有機農産物のエシカル消費を推進する。

※エシカル消費とは、消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと。

③ 事業の目標及び波及効果

現在、南種子町の有機農業の取組み面積は全耕地面積の0.74%(11.9ha)であるが、令和9年度までに0.72%(11.5ha)が目標であることから、今後はそれ以上に拡大することを目指す。有機農産物の販売量の拡大と、有機農業に取り組む人を令和9年度までに16名に増やすこととし、有機農業の普及によって、環境負荷の低減、地元有機資源の利用促進、遊休農地の解消、地元有機農産物の学校給食利用、環境意識の向上などの波及効果が期待される。これにより持続可能な社会の構築につながることを目指していく。

	全耕地面積	有機農業		品目			
			うち有機JAS 認証取得	青果用 さつまいも	ばれいしょ	茶	その他
R6	1,587ha	11.9ha	8.1ha	4.3ha	2.7ha	2.6ha	2.3ha
R5	1,587ha	10.8ha	8.5ha	3.4ha	2.7ha	2.5ha	2.1ha
R4	1,587ha	10.7ha	6.2ha	3.8ha	2.5ha	2.5ha	1.8ha

各専門部会において、内容を協議決定し、実施する。

①地域振興事業（環境にやさしい持続可能な農業推進事業）を活用した取組み

時期	場所	内容	担当部会
R7.4月～ R8.3月	学校	学校給食での有機食材活用イベントの開催 (ゆうきっこチャレンジ給食)	有機給食
	町内保育施設	園児給食への有機食材の活用	生産技術 有機給食
	学校・保育施設	有機農業の普及, 食育学習(出前授業など)	生産技術, 普及・ 流通, 有機給食
	体験圃場	有機農業体験イベントの開催	生産技術 普及・流通
	町施設	環境にやさしい持続可能な農業研修(農業者全般)	生産技術 普及・流通
	-	有機農業研修会の開催(生産者の定着と拡充)	普及・流通, 生産 技術, 有機給食
	トミー市場	有機農産物や無(低)農薬・無(低)化学肥料野菜 コーナーの充実	生産技術 普及・流通
	-	有機JAS認証取得支援(受講・検査費用支援)	事務局
	東京都	新・農業人フェア	農地・移住・就 農
	現地	遊休農地の活用	農地・移住・就 農
	国内	先進地視察	普及・流通, 生産 技術, 有機給食
	-	検討会の開催(全体または専門部会での会議)	全体(各部会)

②みどりの食料システム戦略推進交付金(グリーンな栽培体体系加速化事業)を活用した取組み

時期	場所	内容	担当部会
R7.4月～ R8.3月 事業実施期 間は2年間 (本年度最 終)	町内(実証圃場)	グリーンな栽培体体系加速化事業・有機米実証栽培(有機栽 培技術の確立)	生産技術
	町内(実証圃場)	グリーンな栽培体体系加速化事業・安納いも実証栽培(環境 負荷低減・省力化を含めた栽培体系の確立)	生産技術
	実証圃場	栽培検討会の開催	生産技術
	実証圃場	スマート農機実証・実演	生産技術
	国内	先進地視察	生産技術 普及・流通
	実証圃場	グリーンな栽培体系の検証(品目: 早期水稻・安納 いも)	生産技術
	-	栽培マニュアルの作成	生産技術
	-	産地戦略の作成	生産技術
	-	情報発信(町広報紙などで作業状況を公開)	生産技術 普及・流通
	町施設	令和8年産に向けた研修会の実施	生産技術
	-	検討会の開催(全体または専門部会での会議)	全体(各部会)